

講座・イベント情報

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXかメールでラコルタまで。
電話：06-6155-3167 FAX：06-6833-9851 メール：info@suita-koueki.org

6月13日(土) **ボランティアステップアップ講座**
活動の様々な場面で活かすことのできるコミュニケーションの手法を学びます。
●とき：13:30～15:00 ●定員：先着10名
●対象：ボランティア経験者

6月14日(日) **地域諸団体向け講座 簡単！団体の会計**
～みんなのお金の使い道を正確に記録する～
団体のお金はみんなのお金。しっかり大事に使うため、会計上、気を付ける点を解説し、例題を解きながら学びます。
●とき：10:00～12:00 ●定員：先着20名
●対象：地域諸団体の会計担当者 ●持ち物：電卓

8月21日(金) **〇〇が伝わるチラシづくり講座**
伝わるコツの考え方やチラシづくりのゴクイをワークショップ形式で学びます。
28日(金)
●とき：13:30～16:00 ●定員：先着20名

テーマカフェ
毎月テーマが決まっています。参加された皆さんと一緒に気軽にお話ししましょう！

7月12日(日) **絵になる街角 写真紀行～人・まち・思い出～**
吹田の写真や地図を見ながら、好きな風景や思い出について語ります。
●とき：10:00～12:00 ●定員：先着15名

8月4日(火) **移動式プラネタリウムで星を観る**
(子ども向け)①13:00～ ②14:00～
(大人向け)③15:00～
●会場：千里市民センター大ホール
●定員：各回、子ども・大人 各先着30名

自分にあったボランティア活動を見つけませんか？
『市民公益活動入門講座』 各定員10名
●6月18日(木) 13:30～15:00 昼
●7月17日(金) 19:00～20:30 夜
●8月22日(土) 10:30～12:00 朝
毎月開催

連載

私たちの団体・私たちの活動

市民公益活動団体インタビュー

千里新田地区まちづくり協議会

第7回

千里新田地区のまちなみ



Q 設立の経緯は？

A 吹田市から「まちづくり協議会」の設立について話があったのをきっかけに、地域内の各団体が抱える問題の解決や、個人でも参加しやすい地域活動を目指して2007年に設立しました。

Q 活動内容は？

A 地域には色んな団体がそれぞれで活動をしているのですが、それらの活動スケジュールを調整する役割などを担っています。また、千里新田地区の情報を届ける「かわら版」を3ヶ月に1回発行しています。この地域では、市立の児童センターを地域で管理運営していることも特長の1つです。

＜千里新田地区まちづくり協議会へのお問い合わせ・連絡先は、吹田市立千里新田地区公民館へ＞
〒565-0851 吹田市千里山西6丁目30-41 電話：06-6389-8452

ぶちボラ 働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる(ぶち)ボランティア活動」のプログラムを提供します。

ラコルタサポーター

ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとしてお手伝いいただきます。



↑詳しくはWebで

編集後記 4月1日付でラコルタの職員となって、なんと、いきなりの大役！特集記事「ソンミサン・マウルから見てきたコミュニティビジネス」を担当しました。編集作業を通じて、これからも、色々な人と出会い、学び、成長していけたらなと思っていますので、ニュースレターともども、宜しくお願いいたします。(伊富貴)

＜発行責任者＞柳瀬真佐子
＜編集スタッフ＞茨木由美・伊富貴順一・鍵谷誠一・上村有里・佐藤和男・中井まり・春貴勇力 (五十音順)



出会う→集う→育てる→実る



吹田市立市民公益活動センター

〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ http://suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

ラコルタへのアクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階

*ニュースレターは年4回発行(3月・6月・9月・12月)

2015年6月2日/発行「ラコルタ」吹田市立市民公益活動センター



出会う→集う→育てる→実る



吹田市立市民公益活動センター

ラコルタの
ココに注目!
本号は...
ソンミサン・マウル
から見てきた
コミュニティビジネス
中面特集ページ! →→→→→→→

3月21日(土)

南千里がえっこバザール



毎年大盛況のオークション

今年も実行委員会との共催で、かえっこバザールを開催し、のべ500人以上の参加者が集まりました。単なる“遊び場”だけではなく、スタッフとして働いたり、子どもたちが活動を体験する姿から、大人もたくさんの気づきが得られるイベントとなりました。



30人近く集まったボランティアスタッフ

学生や社会人、様々な立場の人が、子どもたちの笑顔が見たいとの思いで準備をしてきました。その過程で、色んな人をまき込んでいく事の大切さを学びました。「何かをやりたい」と思ったときに、一人でやるには限界があったり、一歩を踏み出す勇気が持てなかったりするのですが、支えてくれる人が周りにいる環境はとても心強く、年齢や立場を超えて共に学びあい、成長することができたと思っています。いつの間にか、家庭でも職場や学校でもない、第三の大切な場になっていました。

「実行委員会に参加して」
実行委員長 尾崎 聡葉

5月9日(土)

ëNカレ ëNカレッジすいた (通称：eNカレ) 第1期が開校しました!



熱心に聞き入る受講生と講座風景

募集人数を大きく上回る問い合わせや応募があり、抽選の結果、20代から60代の男女合わせて25名の受講者を迎えることになりました。

受講動機は様々ですが、eNカレの「何か活動してみたい」や「人とつながりたい」、「地域や社会の役に立ちたい」といったキーワードが応募のポイントのようです。講座初日の「自分にできる“シャカイコウケン”とは」では、社会福祉法人大阪ボランティア協会の永井美佳さんを講師に迎え、また、一般的には講座終了時に行うことの多い懇親会を、なんと！初日に行い、これからの3か月間一緒に学ぶ仲間やスタッフとの友好を深めることができました。2回目の「課題解決のための力やコミュニケーション力について」では、HEALホリスティック教育実践研究所所長の金香百合さんを講師に、誰しもが持つ“自分力”に気づく一日となりました。

懇談会で賑やかに意見交換

ラコルタの
ココに注目！
本号は---

まちづくりに関心のある幅広い層に参加いただきました。

ソ
ン
ミ
サ
ン
・
マ
ウ
ル
か
ら
見
え
て
き
た
コ
ミ
ユ
ニ
テ
ィ
ビ
ジ
ネ
ス

桔川純子さん
(NPO 法人日本希望製作所副理事長)

東京生まれ。大阪外国語大学大学院
外国語研究科修士課程東アジア語学
専攻修了。韓国慶熙大学修士課程留
学後、女性の健康に関わるNGO等の
勤務を経て日本希望製作所日本支部
設立に関わる。成蹊大学、明治大学
の非常勤講師も務める。



子育て

共同育児施設
「私たちの子どもの家」

現在の建物は第2世代のもの。
子どもが使いやすい、遊びやすい
設計に。現在の親たちが中心に
運営している。



成長のプロセス



教育



「ソンミサン学校」

自分たちの大切にしたい
教育を実践する代案学校。
小・中・高1・2年生。
図書館、調理室は地域活動の場にも。

韓国ソンミサン・マウル(サンは山。マウルは町や
村の意味)のまちづくりは、1994年に25世帯の
386世代(1980年代に学生運動に参加した人々を
さす)が集団移住したことがきっかけとなり、その歩
みが始まりました。働きながら子育てをするために
始めた協同組合方式の共同保育が活動の原点となっ
ています。その後、アトピーなどの問題から子どもに
安全な食物を届けようと、現在では約5,000世帯が
加入する生活協同組合を作りました。

この生活協同組合が、まちづくりのインキューベ
ーション機能^(※1)を担い、ソンミサン・マウルのコミュニ
ティの基盤となりました。また、そんな中でまちのシン
ボルであった小山を削って貯水場をつくる建設計
画が持ち上がり、その反対運動が結果的に地域の絆
を一層高めることになりました。

その後、コミュニティカフェやコミュニティレスト
ラン、ソンミサン劇場など次々とコミュニティの拠点
が生まれました。また、特徴的な取組みとして、教育
熱の高い韓国で協同組合方式のソンミサン学校(代
案学校^(※2))を作りました。そこは受験のための学校
ではなく、衣食住の暮らし方を学び、生きていくため
のプロジェクト教育もしています。その他、今では、
住宅事業(コーポラティブ住宅)や金融事業(コミュニ
ティファンド)にまでその取組みは広がっています。
このような、様々な起業が生まれるソンミサン・マウ
ルは、国内外から年間5,000人が視察に訪れる「住民
の自立的なまちづくりの名所」となりました。

(※1) 元々は、卵をかえす孵化という意味で、事業の創出や創業を
支援する活動やサービスのことをさします。
(※2) 従来の学校教育とは異なる学習プログラムを実施する学校の総称。

学ぶこと

【①必要が活動を生む】【②一つの成功体験が次の活
動(事業)を生み出す】【③合意形成を放棄しない】
【④対立、葛藤から逃げない】【⑤やりたいことはやる。
でもリスクも引き受ける】【⑥価値を共有する】
【⑦暮らしを楽しむ】が、ソンミサン・マウルの文化と
は言え、ほっとかないで、協働でなんとかしようとい
うのがソンミサン・マウル方式です。いくら有効な法
律や制度があっても、地域に活用できる力がなければ、
それに振り回されるだけです。特に、ソンミサン・
マウルの人たちは、地域で一緒にごはんを食べるこ
とを楽しんでいて、家族でない「社会的おじさん、社
会的おばさん」が地域の中にいっぱいいるコミュニ
ティを築いています。そんなコミュニティの中では、
強いリーダーが一人で進めるのではなく、みんなで知
恵と経験を出し合いながら合意形成により、活動が生
み出されることが重要です。今、日本と韓国の国際
的な関係が話題になっていますが、国際交流も国と
国だけでなく、地域と地域から学び合う関係をつく
りはじめることが重要です。

事業と活動

- 教育・協同保育子どもの家・放課後の協同育児
- 経済・生活協同組合・コミュニティカフェ
・セッケングループ
- 自治・コミュニティミーティング麻浦地域協同組合議会
- 文化・劇場・コミュニティラジオ・文化芸術同好会
・コミュニティ新聞
- 環境・カーシェアリング・リサイクルショップ
- 福祉・麻浦希望の分かち合い・ケアグループ
- 協力団体・保険医療連帯・障害者自立自活センター
・民衆の家 など

コミュニティの再生と
コミュニティビジネス

講演を聞いて感じたのは、コミュニティビジネスに
は、まず、日常の暮らしの中で、人と人がつながり、信
頼し合う関係性が必要なことです。そうでないと誰
かが「このまちにはこれが必要」と声をあげても誰も
受け止めてくれません。心を許せる「社会的おじさん、
社会的おばさん」を地域で増やすことが、たくさんの
安心と笑顔を創ることにつながるのだと思います。

決定！ 2015年度
吹田市市民公益活動
促進補助金の交付団体

5月16日(土)にラコルタにて、申請団体の公開
プレゼンテーションが実施されました。審査の結果、
応募団体23団体のうち、14団体が交付団体とし
て決定しました。※(順不同)上部が団体名、下部が事業名

◎ 吹田ホスピス市民塾

ピアサポーター養成研修

◎ 吹田子ども支援センター

子育て相談、教育支援広場プロジェクト

◎ 特定非営利活動法人すいた環境学習協会

吹田市の公園の樹木を調査し名札を掛ける事により、
広く市民・児童に樹木に親しみを持たせ、緑化啓
発とみどりの保全と安らぎの空間を提供する事業

◎ 音訳グループ「とも」

音訳活動の普及事業

◎ 特定非営利活動法人 吹田市音楽療法推進会

おんがく・さ〜くる・コスモス
歌とリズムのいきいき健康コンサート

◎ 特定非営利活動法人吹田こども・夢・未来協会

自然探検隊〜チームためきで探検だ!〜

◎ ママGOGO

ママ元気、マチ元気プロジェクト

◎ 「人の輪と心を育む」ひまわり教室

聴覚障がい児の保護者及び聴覚障がい児者支援事業

◎ ゆう・きっず

発達障がいまたはその周辺の子をもつ親の会事業

◎ 特定非営利活動法人 なの花

発達障がい児を持つ親の集い事業

◎ すいた体験活動クラブ

体験型環境学習支援事業 ― 児童たちが、畑作りと
ビオトープの補修にチャレンジ ―

◎ わたしにできることプロジェクト

語り合おう介護の魅力〜あなたの笑顔に癒される〜

◎ yoga space 紬一つむぎー

「やさしい椅子ヨーガ」

◎ モモとこどもプロジェクト

こどもの未来創造事業